



緑化建設協会だより

No.25

発行所 社団法人 石川県造園緑化建設協会 広報委員会 発行責任者 北市 一博
〒921-8025 金沢市増泉4丁目1番1号(フナミビル4階) TEL076-242-4246 FAX076-242-4391

砂漠緑化と紙おむつ



前内閣総理大臣
衆議院議員 森 喜朗

皆さんが日頃から営々と努力を重ねておられる緑化整備とその対極にあるのが地球の砂漠化です。

世界の砂漠面積は三千万平方キロメートル(日本全体の耕地面積の五百倍)あり、しかも毎年五百万平方キロメートルづつ新たに砂漠化しているといわれています。もしこの砂漠化の勢いを止め、緑化することに成功すれば現在かかえている地球規模の課題である食糧難から解放され、また植物の炭酸同化作用の増幅によって大気中の酸素が増えオゾン層の破壊を防ぐことも出来る筈です。

砂漠の緑化に成功すれば、アフリカや中南米など発展途上国の貧困問題やそれに伴う教育問



題を一挙に解決することも可能です。

丁度三年前になりましたが総理在任中に、私は南アフリカ・ケニア・ナイジェリア三ヶ国を歴訪する機会がありました。

ケニアでは、この国の人材育成に寄与しているジョモケニヤッタ農工大学の農業実習を見学しましたが、その時耳にしたのが砂漠の緑化に効果絶大な保水剤の話でした。

この保水剤は、文字通り水をとつともなく大量に吸い込み貯め込む性質をもった物質で、簡単に言うと老人用の紙おむつや女性の生理用品に使われている高分子樹脂を原料とする「高吸水性ポリマー」という物質です。

現在、この物質は紙おむつ市場で一十億円。ナプキン市場では八百億円を稼ぎ出している優れものなのです。

土壌にこれを適量混ぜて散水すれば、この物質が水を吸い取り土壌や砂地の中でダムの働きをして水を保つことが出来るのです。

この保水剤が砂漠地域での農業に多いに役立つことが証明されつつあります。そして経済産業省の海外協力事業「グリーンアース」計画の一環として、この保水方式は砂漠緑化の悲願に込める救世主として期待されているのです。

緑化建設協会の皆さんには釈迦に説法なかもしれませんが、北陸のような雨の多いところでは、この保水剤はあまり不要性があるとは思われませんが、夏場の乾燥に弱い街路樹に

ガーデンシティ構想と観光立県



石川県議会上木
企業委員長 宮元 陸

緑化政策の重要性を改めてここに説明するまでもなく、「二十一世紀は環境の世紀」と言われる言葉に代表されるように、総合的な環境政策の中の大きな柱であることは論を待たないところであります。

緑化政策は、環境問題を克服する効果と同時にもうひとつの側面があります。それは経済政策としての緑化という側面であります。

今、我々が直面している未曾有の景気低迷と経済不振、それが我々の生活を直撃している中、環境と経済を両立していくための二正面作戦を余儀なくされています。しかし、それは決して二律背反するものでなく同時に克服しうる課題だと私は思っております。

そこで、私が緑化政策で常に思い起こすのは、シンガポールの「ガーデンシティ構想」であります。彼の地を訪れた方が一応に感ずることではありますが、整然と整備された街路樹や都市公園、南国を実感させる色鮮やかな植物が至るところで目につくその街並みの美しさは、世界各国から訪れる多くの

効果があることも実証されているようです。造園緑化建設協会が、その前途洋々の将来を自らの力で拓かれていけることを心からご期待申し上げます。

観光客の目を和ませかつ多くの賞賛を浴びております。今日ではシンガポールを称して「ガーデンシティ」あるいは「クリーランドグリーンシティ」と呼ばれる所以がそこにあるわけであります。

一九六五年にマレーシアから分離独立してわずか四十年足らずの間に、金融、貿易、観光の中心地として、またアセアンの優等生として強い国際競争力を誇るに至っております。この奇跡の経済発展をするに至った背景に独立後すぐ最重要国家政策として執られたのがこの「ガーデンシティ構想」でありました。

独立当初のシンガポールは、人口わずか二百万人余り、国土面積は淡路島程度しかなく目立った産業や資源の無い小国であり、なおかつ他民族国家で高温多湿の気候を有する厳しい条件下にありました。

そのような厳しい状況の中で、国家として生き残り、繁栄をしていくためには外国からの投資や企業誘致そして観光誘客など外部の力に依存せざるを得ず、そのためには外国人が安心して訪問し、投資や企業進出などを行うことのできる環境をつくる必要性があったからであります。

そこで目をつけたのが「緑化」でありました。世界トップレベルの緑の国を築き上げ、安心、快適、清潔なイメージを海外投資家や観光客に与え、その力を借りて国際競争力を高めていくことが独立後間もないシンガポールの国家としての至上命題であったわけでありました。

このシンガポールの壮大な実験にわれわれは大いに学ぶべきであり、海外から高い評価を得るための基本は、快適な住みやすさにあることを再確認すべきであります。

時あたかも国は、訪日外国人観光客を現在の倍の一〇〇〇万人を目標とする「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を国家戦略に掲げています。同様に観光立県を標榜する我が県としても、国と連動しこの流れを加速すべきであります。それにはしっかりとした政策を確立し、それを確実に遂行する強い意思が必要であります。

そのキーワードが「緑化」にあることを、実験国家シンガポールは教えてくれています。



協会新春互礼会盛大に催される

恒例の新春互礼会が、去る一月九日金沢市のホテル六華苑で盛大に開催された。当日は、協会会員八十名が出席し、谷本知事を始め、馳両衆議院議員、杏掛参議院議員、及び協会顧問である善田、紐野、下沢の三県議会議員更には、福本土木部長、中西農林水産部長など十二名の来賓の方々と共に和やかに新春の挨拶を交わし、平成十六年が実り多き年になるよう互いの努力を誓い合った。

互礼会の冒頭、植村会長は「公共事業の見直し等厳しい状況が続くが、幸い環境緑化は二十一世紀のキーワードであり今後とも成長発展を遂げる分野である。それだけに他業種からの進出も増大してくるが、このような状況に負けず新しいビジネスチャンスを探るため、積極性をもって事業に取り組んで欲しい。

協会でも新たに「学校の緑化」事業の調査研究に全力を注ぎ、その成果を冊子として出版したが、今年は事業拡大に努めることとしている。」と挨拶、続いて谷本知事が来賓として「金沢市の中心部に庭園技術の粋を凝らした兼六園、自然林を残した金沢城、本多の森や中央公園を含め五十四ヘクタールとゆう日本有数の緑地がある。これを後世に伝えていくことが大切であり、造園の皆様の力をお借りしたい。また、公共事業の抑制とゆう厳しい中ではあるが、協会からの提案があれば、検討したい。」と挨拶され、引き続き瓦、杏掛、馳の三国会議員が次々に祝辞を述べられた。その後、紐野顧問の乾杯で懇談に移り、最後に下沢顧問の中間締めで平成十六年新春互礼会を閉会した。



協会の近況

安全衛生管理 研修会の開催

平成十六年一月二十日、石川県建設災害防止協会の室アトバイザーを講師として開催され、二十六名の会員が参加、安全衛生管理の必要性、重要性について講義を受けた後、四チームに別れ安全管理計画表の作成に取り組み、二時間の熱心な議論の末完成させ、その成果を発表しあつて終了した。



電子入札 ビジュアル講習会

平成十六年一月二十三日
加賀「セミナーハウスあいらす」にて催され、十八人参加し

た。参加者は、講師の指導に従つてパソコン画面を操作し、熱心に体験していた。



協会恒例ボウリング 大会開催

協会恒例のボウリング大会が、平成十六年一月二十四日ボウルサンサーカス(ルネス内)で開かれ、北村、紐野、下沢顧問の三チーム、会員各社三十一チーム合わせて、三十四チーム百三十六人で争われた。和気あいあいの中にも激しい闘志のあふれた好ゲームが展開された。結果は次のとおりです。

- 団体上位三チーム
- 一位 (株)リタニンググリーン
- 二位 (株)城北園
- 三位 (株)和光造園

個人上位三名

- 一位 森山 武
 - 二位 木村 久美夫
 - 三位 池島 弘
- (有)出雲園
(株)和光造園
ピーエヌシー工業(株)



おめでとう
ございます

◆平成十五年度

石川県優良建設功労者表彰
(株)庭芸社
代表取締役 笠井順二



(株)岸グリーンサービス
取締役工務部長 田淵清明



◆平成十五年度
石川県技能頭功賞
(有)昭美緑地
専務取締役 福島 清



《税務署からのお願い》

申告はお早めに。
所得税

平成16年3月15日(月)
消費税及び地方消費税

◎インターネットでらくらく申告書作成
http://www.kanazawa-nta.go.jp

(社)石川県造園緑化建設協会 加賀地区研修会開催

平成15年12月13日、グランドホテル松任において、当協会加賀地区会員による研修会が開催されました。

当日は会員24人の他、森喜朗衆議院議員に超多忙なスケジュールのなか特に臨席いただき、「南加賀の、また石川県の緑化を今後どうしていくか」をテー



マに、多方面における緑化との関連性についての研究成果を発表し、他会員との質疑応答や活発な意見交換等に加えて、森喜朗議員から、それぞれの分野について同氏が日頃抱いている理想等を交えた講評をいただき、大変有意義な報告会となりました。

発表に用いた資料は、自分達に出来る事から始めようと自らが培ってきた知識、アイデアを基礎に、造園の未来の景観づくり、更には私達や子供達への豊かな環境づくりをテーマに、小グループの6班に分かれ、実地調査、先進地視察、情報収集を行い、考察を重ねた各分野の研究

研究成果を一冊にまとめたもので、表題は『ひと足先に行きたくなるわけ』(みどりのネットワーク)くみらいの子供たちへ』となっております。

内容は、

1. 空港——小松空港周辺の交流スペースの活用構想についての提案
2. 河川——水辺空間の水と緑のネットワーク構想についての提案
3. 道路——街路樹グリーンベルト構想、サイクリングロード活性化についての提案

4. 木場潟——リフレッシュウッド構想についての提案

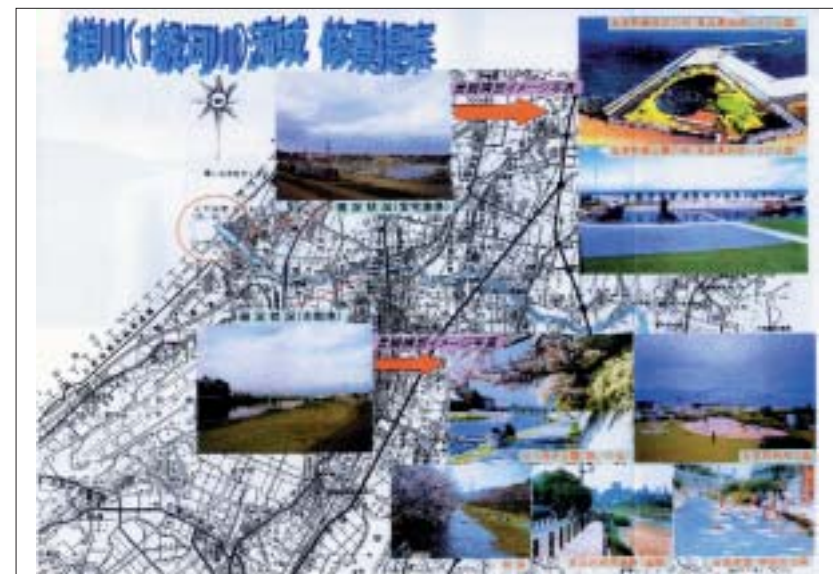
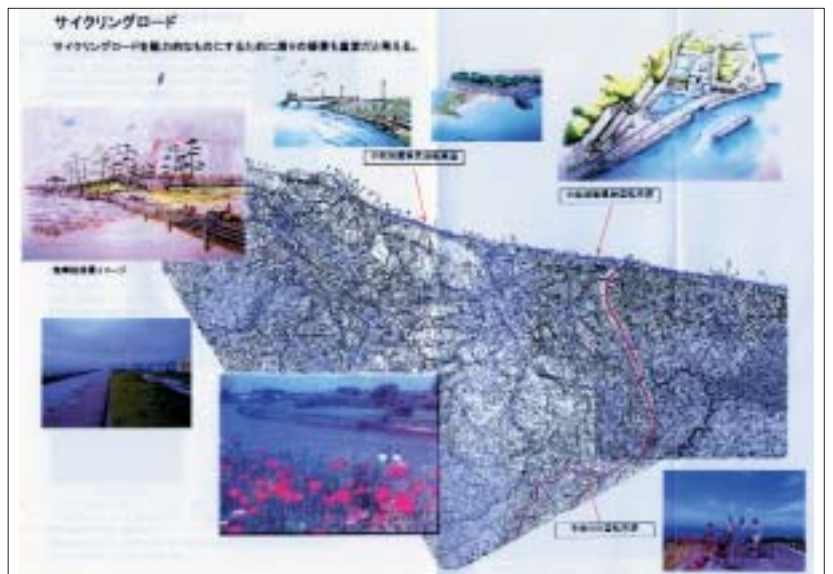
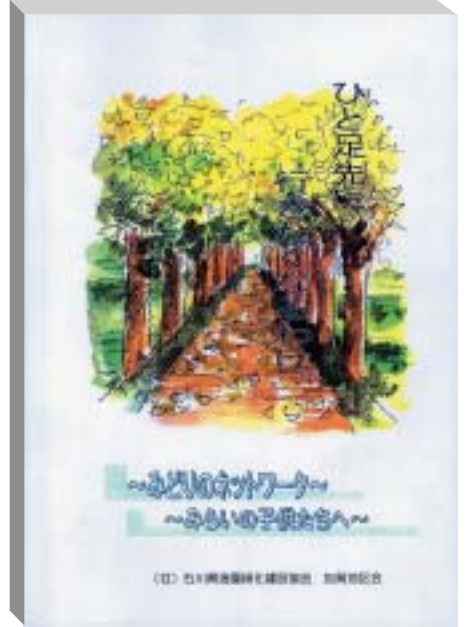
5. リサイクル——間伐材利用についての提案

の5章からなっており、研修会では各グループの代表者がそれぞれ担当した分野について発表し、意見交換が行われました。

また、森喜朗議員は、空港では防衛庁関連も含めた空港整備のあり方について、河川では流域全体を線としてとらえた取り組みを、全国の先進地の例を取り取川に当てはめよう進めるべきかを、道路では拠点と拠点を結ぶ線の整備の重要性や、学校公園、観光地の道路修景、空港からのアクセスルートの整備についてを、海岸線についてはサイクリングロードも含めた整備手法を、木場潟では教育を取り入れた公園づくりの具体案を、リサイクルではリサイクル事業の今後の取り組み方とその重要性を、更には森林整備、墓地の修景等の環境緑化や学校教育と緑との結びつき等々教育問題をも包括し、広範囲な分野にわたる詳細な点にまで言及され、我々の今後の活動について更なる可能性を示唆されました。

加賀市が温泉を抱えた観光都市である特性を生かし、観光資源の整備について、今回の報告会の成果を具体的に進めていくことができるならば、またこのことが県下各市町村間の垣根を越えたつながりを持って進められるならば、素晴らしい観光都市として、また観光立県として新たな風をおこすことができるかと確信しています。

最後になりましたが、森喜朗議員には、貴重な時間と貴重な意見を頂戴することが出来ましたことを、改めて御礼申し上げます。



石川県夕日寺健民自然園
村上 貢 園長



生きものと笑顔があふれる里山

日本の農耕文化とともにあった里山は、多種多様な生きものにとってなくてはならない環境が保たれ、人々にとっていちばん身近な自然でありました。里山は今、人の手が遠のいて荒れたところになっています。

自然園では里山の自然環境を守り、そこに生きる生きものたちとのふれあいの場を目指しています。平成15年4月にはこれまで整備してきた「里山自然観察路」が

開通し、34haから77haへと広がった敷地を活用できるようになりました。コナラやアベマキの雑木林では、森のざわめきを肌で感じながら花や葉の形等を観察し、木の自己紹介プレートで樹木の名前を覚えたり、クイズに挑戦したり遊びながら里山のもつ役割について学びます。谷間にはトンボサンクチュアリーやモリアオガエルの池等があり、さまざまな動植物を観察できます。芝生広場をはじめ化石や野鳥の広場、チョウやバッタの草原もあり、散策を楽しみながら里山の多様な自然にふれることができます。また、多くの生きものたちとふれあえる環境づくりの一環としてオオムラサキ(国蝶)の復元保護も行っています。

平成14年4月から私は、幼年期、少年時代過ごした里山を舞台にした職場にいます。冷房のない職場で体調を整えるのに時間がかかりましたが、窓を全開してこちよ自然の風に触れています。「ノーベル賞の発想」というテレビ番組で、福井謙一氏は「幼い頃の



自然の中での感動的な体験の積み重ねが新しい創造力の源である。』と語っておられます。貴協会のメンバーが中心となってまとめあげられた「緑に親しむいしかわの学校緑化」も豊かな情感を育むことができる環境づくりがテーマで、人と自然

と共生できる課題の提起でもあります。子どもが自然とかかわりあう時、やがては本来のみずみずしい感性をとり戻すことができ、大人になっても超スピード時代の変化に振りまわされることなく対処できるのではないかと考えています。

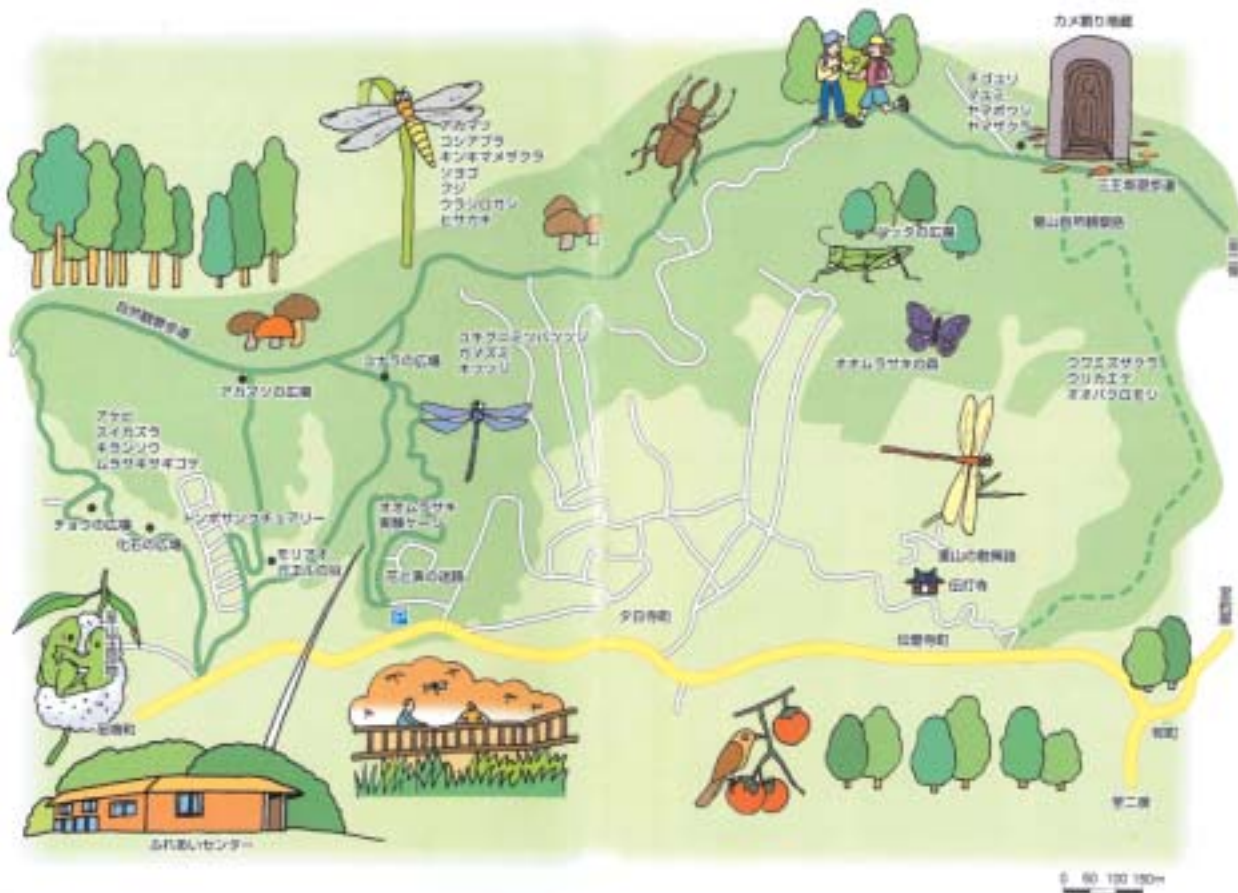
自然園ではふれあいセンターでの企画展示をはじめ、「里山保全ワーキングホリデイ」「里山あそび塾」「夕日寺ガイドウォーク」等色々な活動の面にも力を入れております。

「里山保全ワーキングホリデイ」は荒れている里山を再生し環境保全する活動で、下刈りや間伐、観察路をつくる等『生きものと笑顔があふれる里山の復活』を目指し、今年度は8回開きました。

「里山あそび塾」はドロンコ遊び、自然素材を使ったアートへの挑戦、ザリカニ釣り、落葉、雪あそび等で年6回開いています。毎回募集人員の倍以上の応募があり自然園での人気メニューの一つとなっています。

「ガイドウォーク」は気軽に自然に触れてもらう自然体験プログラムで、主に春と秋の毎土、日曜日、自然解説員が四季折々の里山を案内しています。

以上のような活動を通じて自然と身近な関係が育ち、人々が気軽に足を向ける里山として「地域の庭」となれば、もっと自然な存在として親しまれるのではと思っています。また、これまで述べてきた活動や里山の環境づくりが緑への関心呼び、まちなかの屋外空間も充実させるきっかけとなってほしい。心身の面でも大きい実りを期待しています。さらに自然園の充実をはかるため、雨や雪の日も屋内での作業や里山体験できるレクチャーホール、研修ホール、作業場、炭焼小屋等の施設も今後必要であると考えています。



「能登風土記の郷」を周って

昨年、鹿島町の石動山で能登歴史公園(石動山地区)が開設されました。これは昭和六十三年策定された能登風土記の郷構想の中で拠点となる施設です。

古来、能登と加賀では生産・文化・宗教等において、別々に特徴的な発達を遂げてきたと思われ、中能登の七尾市と鹿島郡六町には、古代より戦国時代にかけての多くの史跡や特異な伝承が保存され伝えられています。それらを広域的に保全・継承し、公園化等による環境整備や受け継がれてきた遺産や連年を活用した街づくり、そして心豊かな人づくりを進め、他の教育文化施設や観光施設と一体となり活用を図ることが、この構想の骨子となっています。整備計画の中で完了してきている所がありますので紹介します。



のと王墓の里ゾーン

雨の宮古墳群

周囲の林を抜ける見上げる威容と、田地を眼下に見下ろす地の選定に、古代の人の力が思われます。又、葺き石は町民が持ち寄り作業した事は聞いたことがあり、今では車中より鹿西町の山を見えるようになりました。

いするぎ法師の里ゾーン

石動山

古代からの山岳信仰の山であり、能登半島国定公園にも含まれています。鹿島町により僧坊の中心大宮坊が復元され、公園の中では多くの僧坊跡が整然と整備されています。対象地区四十一ヘクタール余りの内五・九ヘクタールでの開設なのでその広さは見当がつかえません。

香島津と古城の里ゾーン

能登国分寺跡

朱塗りの南門が復元され、市民のレクリエーションや観光コースとして供用されていて、隣



能登国分寺公園

地に於いて能登歴史公園(国分寺地区)が計画されています。又国史跡の七尾城址や万行遺跡は調査中です。

万葉と入海の里ゾーン

中島町祭り会館

奇祭、お熊甲祭りを中心にして、町内の各祭りを紹介し観光コースとして整備されています。又、中島町の地名は歌人、大伴家持に歌われていて、万葉の里として町のイメージを打ち出しています。

数ある整備ヶ所の中で四ヶ所のみですが、紹介いたしました。これらを周って思うのですが、全ての地域の人々にとっては宗教と等しい心の柱であり、人格の形成にまで影響していると思えます。今の時代の我々が確かに受け継ぎ、次代に確実に伝える、ソフトの作業が一番重要な事なのだと感じました。



祭り会館

森林病虫害防除活動支援事業 (松くい虫防除樹幹注入剤の部) 研修会



去る12月10、11日に石川県森林組合連合会主催による『平成15年度森林病虫害防除活動支援事業（松くい虫防除樹幹注入剤の部）研修会』が開催されました。

講師に石川県林業試験場の江崎功二郎主任技師、ファイザー製薬㈱の梅原欣二氏による室内研修、及び現地研修が行われました。

江崎氏には、松くい虫の生態および樹幹注入剤の効果・使用に関する留意事項などをわかり易く説明して頂きました。

また、梅原氏には、松の樹木特性や樹幹注入剤の効果と施工法についてスライド等を使用してご指導いただきました。

さらに、2日目の現地研修に於いては両氏をはじめとする方々の熱の入った樹幹注入剤の注入作業技術指導が行われました。

- ①施工前の松の健康診断法【外観の診断、樹脂（ヤニ）の出方による診断法（小田式）】
- ②施工の事前準備【胸高直径の測定→薬剤量の算出】
- ③施工の時期、時間、天候について
- ④樹幹注入剤の打ち込み箇所を選定方法と留意点について
- ⑤ ーケー の施工方法【特に薬剤の漏れがないように・・・など】
- ⑥ ーケー の施工直後のチェック【薬剤の漏れ、注入状況など】
- ⑦注入孔の処理【殺菌癒合剤（トップジンMペースト）、被覆塗布剤（カットパスターHI）使用】
- ⑧片付け等

各講習者の注入剤の施工責任を自負して行うようにと、施工完了木に付けるラベルにイニシャル、名前が記載されるということもあって、参加者は真剣に研修会に取り組んでいる姿が印象的でありました。

2日間に渡る研修、早朝から尼御前SA松林にて海風の冷たい中、石川県森林組合連合会、講師の方々に於かれましては、寒さを吹き

飛ばすあついあついご指導を頂きまして感謝する次第です。また、樹幹注入剤使用による薬害等に対する技術向上など松を守っていく強い姿勢をひしひしと感じました。

現在、松くい虫被害は一向に歯止めがかからず、身近な名松も被害を受ける中、どうしたら松を守るのか思い悩む時代ではありますが、ひとつの光が見えたのではないかと感じました。

●松樹幹注入剤作業実施における留意事項

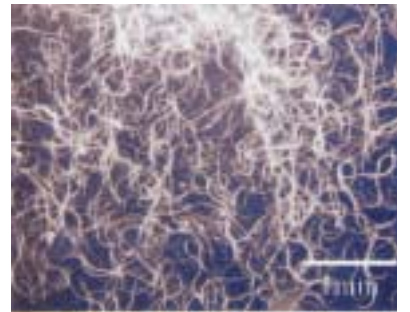
松くい虫被害は、マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリの後食痕から松樹体内へ侵入し増殖することにより、松が生理的障害を発生させ枯死する。

樹幹注入剤は、松樹体内へ侵入するマツノザイセンチュウを殺虫や麻痺させる方法である。

- 長所は、
- ①薬剤が他に飛散しないため環境にやさしいこと
 - ②薬液が適切に注入された場合は枯損率が極めて低くなること
 - ③長期間に渡って効果が持続すること（現在最長で4年程）

- 短所は、
- ①松樹幹に薬剤を注入するための数箇所の小さな穴（7mm程度）をあけること
 - ②薬液が漏れると形成層障害（幹割れ）が発生すること
 - ③適切に注入されないと効果がないこと
 - ④樹形によっては適さない松もあること
 - ⑤高価なこと

これらの長所を最大限に発揮し短所を補うために、適切な作業技術と知識を持つことが重要である。



松枯れの病原体マツノザイセンチュウ



センチュウの運び屋マツノマダラカミキリ

これからの松くい虫防止対策



林業試験場
江崎功二郎

石川県における松くい虫防除対策は30年近く行われています。しかし、広域的には被害は減少しているものの、現在でも局所的に大発生して、重大な問題となっています。松くい虫被害は発生初期に抑えるのが効果的ですが、被害が激化してから気が付いて、手遅れとなるケースが多いようです。松林における被害の激化は隣接する庭園や公園などにも被害を拡大させます。

将来に渡って松林を松くい虫から守るためには、地域一体で松林を守って行こうという姿勢が必要です。地域全体で「守るべき松林」を慎重に選定して、管理していくことです。適正に管理できない松林では自然に松くい虫が増加します。例えば「守るべき松林」をしっかり管理していても、概ね半径2km以内に管理できない松林があると、松くい虫被害は飛び火して行く可能性があります。このような松林は松以外の樹種に転換することを検討してください。松林には様々な所有者がいるので、松くい虫防止対策には地域全体での住民協力が不可欠なのです。また、松くい虫被害は発生初期に放置すると、その翌年には爆発的に大発生して手遅れとなる危険性があります。地域住民参加で監視体制を強化して、初期の発生で抑えることにより被害の拡大防止が期待されます。

